

装飾 アートの熱き源流

月刊 アートコレクターズ

The Pleasure To See,
The Pleasure To Buy.

July
2025 NO.196

7

Art

Collectors'

寄稿

石倉敏明 山本浩貴

アートの
装飾の
熱き源流

装飾





智内兄助 「睦月・旦・雪散華」

アクリル、和紙 130×97cm

古来、数多^{あまた}の装飾とは呪術ではなかろうか。呪術とは「超自然的存在や神秘的な力に働きかけて種々の目的を達成しようとする意図的な行為」とある。そして「善意の意図によるものは白呪術^{ホワイトマジック}、邪悪な意図によるものは黒呪術^{ブラックマジック}」ともある。では翻ってほくの金呪術^{ゴールドマジック}の目的と意図やいかに。 （智内）

ちない・きょうすけ 1948年愛媛県生まれ。東京藝術大学大学院修了。安井寛他受賞多数。●ギャラリーためなが ●掲載作品＝506万円 ■グループ展（2025年秋・ギャラリーためなが）、個展（2026年10月・ギャラリーためながパリ）





小林万里子

「所有され得ぬ者たち」

2024年 木綿、麻、オーガジー、染料、興禅院の枝 H260×W260×D30cm

生き物と私たちの関係を紡ぐような作品を制作したいと思っています。

この作品では薄い透明な生地の上に、移ろう季節と大地を巡る水、循環する生命の輪を糸と布で描いています。

名前をつけ、分類し、切り分けて所有することが難しい一繋がり、その絡み合う混沌とした世界にこそ真の価値と美しさを感じています。 (小林)

こばやし・まりこ 1987年大阪府生まれ。多摩美術大学テキスタイルデザイン専攻卒業。2012年同大学大学院修了。KOTARO NUKAGA

■Andrea Myersとの共同制作作品展示 (開催中〜10/13・大阪・関西万博アメリカ館VIPフロア)、Andrea Myersとの二人展「Collecting a sky—風景を渡る糸—」(7/19〜8/24・川口市立アートギャラリー・アトリア)

大竹寛子

「Spiral Vol.11」

2025年 紙本彩色(岩絵具、銀箔) 100×100cm

日本美術における装飾は、西洋の「芸術 vs 装飾」という二項対立の枠組みとは異なり、単なる視覚的な美しさだけでなく、「無常」「簡素」「侘び寂び」といった日本の美意識の伝達手段となっている場合が多く、例えば、私にとって金箔や銀箔の使用は、豪華さではなく「変化」「移ろい」を可視化する象徴でもあります。 (大竹)

おおたけ・ひろこ 2011年東京藝術大学大学院美術研究科博士課程日本画研究領域修了、美術研究博士号取得。15〜16年文化庁新進芸術家海外派遣制度(アメリカ・ニューヨーク)。■ギャラリーためなが、Waterfall Mansion and Gallery ■掲載作品=158.4万円 ■グループ展(2025年秋・ギャラリーためなが)

